

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	2	前期	必修	いいえ	112

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>①本試験の成績の平均値は70(±12)点であり、再試験後不合格者は4名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等であり、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は95%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も95%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、態度に関し、目標は達成したが、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.5で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.1で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.8で低かったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。</p> <p>学生の意見として、授業を進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲、技能表現の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。</p> <p>講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康管理概論	3	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得のための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体ときにはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。</p> <p>⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すようこころかけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は67(±8)点であり、不合格者は10名であった。再試験後不合格者は0名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した者は40%しかいなかった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は低かったため、次年度は成績を上げる工夫が必要である。</p> <p>③学生による授業評価においては、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP, 行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識・理解に関する達成度が比較的やや低かったが、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので、3年生の学生には少し難しかった可能性があり、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.5で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.0であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.2で、授業の内容はよかったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、演習問題の回答用紙を配ってほしいというものがあつた。次年度からは取り入れていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、思考判断、意欲関心の面で課題は達成できたが、知識理解の面では課題を残した。今後、予習・復習の重要性をしっかりと説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断、勉強意欲関心を高めることができた。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間をとり、復習課題を提示して、学生の知識理解を深める努力を行ってきたい。</p> <p>講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	相良かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康情報処理論	2	前期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①科目名から何を学ぶかをイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。できるだけ具体的な事例を挙げて、関心を引きつけるようにしている。 ②毎回確認問題を解答させ、学習状況を確認するようにした。 ③授業初めにシラバスの内容と成績評価の説明を10分程度し、シラバスの説明をしたつもりでいたが、シラバスを参考にすると答えた学生は113名中35名であり、シラバスの説明時間を長くし丁寧に説明する必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった		達成されなかった
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、AクラスはA:20.3%、B:35.6%、C:30.5%、D:11.9、BクラスはA:13.6%、B:45.8%、C:30.5%、D:10.2%であった。 1年次の「現代社会と統計」で学んだ記述統計を定着させることは出来ていたが、それを応用すること、多様な方法がある場合に、それぞれの長所や問題点を整理することにまでは至らなかった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」であるが、幅広い教養を身に付けるという点においては、内容的に妥当であると考える一方で、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にするという点において、工夫が必要だと考えている。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DP4, 「態度」については意図的に行わなかった、「知識・理解」においては、成績より記述統計学の知識・理解は定着していると考えられるが「思考・判断」に関しては、批判的・理論的に判断する必要性を認識するに留まっている。 ③まとめ 以上から、D4以外において、「知識・理解」においては内容的妥当性には問題はないと思われるが、「思考・判断」においては、教材等の検討を要すると考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>教科書がないことから、予習・復習がし難い授業である。15回の授業内容を纏めたものを作成する必要があると感じている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>思考することを重視する授業を心がけている結果、「復習(記述統計)を重点的にしてくれて少しずつ出来るようになり、嬉しかった」という感想がある一方で、「この場合はこの公式を使うというように教えてほしい」、「説明が回りくどい」といった意見があった。 シラバスの説明を詳細に時間を掛けて行うことに加え、教科書に準ずるものを作成し、15回の授業の全体のイメージが描けるようにしたいと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	清末達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学	1	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>人体の基本的構造と、その恒常性を維持するための基本的な器官・臓器の働きについて概略を学ぶため、同時進行で受講する「解剖生理学実習」との相乗効果を狙って、学習項目がなるべく重なるように心掛けた。</p> <p>今年度から、高校での教育課程が変わり、ほとんどの学生が高校で「生物基礎」を受講していることから、「生物基礎」での土台となる知識の上に大学で学ぶ「解剖生理学」を積み上げることを意識した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が97.0%に達している。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対する肯定的な回答も、それぞれ99.0%、99.0%であり、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>主に期末テストによる成績評価では、S,A,B,C,Dの度数は、30、34、26、4、5となり、欠点Dの割合は5%にすぎず、多くの学生がこの科目に積極的に関わったものと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおける学習到達度の評価結果からみて、初年時に身に付けてほしい基礎医学分野の解剖生理学の知識は、学ぶ者にとって相当な負担であることは間違いない。内容が盛りだくさん過ぎるため、消化不良を起こす恐れはあるが、限られた授業時間数からみて、到達度がある程度高く自己評価されているのは嬉しい。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生からの意見として、授業の時間配分の不適切さが指摘されている。肝に銘じて今後は綿密な授業計画を立てて臨みたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>おおむね1年次に開講する基礎医学としての「解剖生理学」の教育目標は達成されている。来年度は、授業内容の精査と時間配分の見直しを徹底したい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	146

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①生化学という科目の本質上、講義では、特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」で講義した内容との連動性を重視している。「化学」という言葉が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる(学生に質問するとそう答える学生が一番多い)。今回の受講動機は、「必修科目である」98.5%、「資格取得に必要である」46.2%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は2.3%にとどまっている。苦手意識を持っている学生は、実際には最初から取り組んでいない(人並みに学習していない)だけで、本当に苦手であるかどうかも定かではない場合が多い。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを説明し、正面から取り組んだ結果、十分な成績を修めた先輩の実例の紹介も行った。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終成績の平均は67点、不合格者は34名であった。うち、優(80点以上)以上の成績を修めた学生は、51名と例年を上回っていた。一方、50点未満での不合格者が26もいた。成績が高得点と低得点の両極端に分布している傾向にあった。授業の予習・復習が0または2回以下の学生が、それぞれ100名以上または約80であった。ほとんどの学生が普段からの予習・復習は特に行っていないが、試験前に学習することで、充分合格圏に達していたと考えられる。50点未満での不合格者は、予習・復習を行わず、試験前の学習も不足していたのではないかと考えられる(要するに完全な勉強不足)。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力をよとする問題を併せて9割以上、やや高度な思考力をよとする問題を若干の割合で出題し、基礎問題だけでも合格点を達成できることを心掛けて作成した。合格者の点数の優劣は、主に基礎問題での得点率に依存していたように見受けられた。やや高度な思考力をよとする問題の正解率は、全体を通して低かった。要するに全体にまじめではあるが、深く思考する姿勢をもった学生が少ないと考えられる。このことは、受講動機が「関心のある内容である」とした学生が極端に少ないことと関連があると考えられる。今後、いかにすべての学生に意欲を持って受講させるかが課題と考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。例年より合格率が上がったこと、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率の高さから、前二者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。やや高度な思考力をよとする問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要があり、得点率が決して高くなかったことは、今後の課題となる。</p> <p>全体としては、おおむね妥当な内容であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.7と低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本年度は、合格率、平均点とも従来を上回るものであった。少なくとも本年度は、達成度は向上しているものと考えられる。本年度の学生の受講態度は、2年生、再履修者ともに全体としては、高評価に値するものであった。このことは、例年よりも高い合格率に寄与した要因の1つと考えられる。また、今年の2年生は、1年時から講義後に質問に来る学生が、比較的多かったので、その際、学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を得ること多く、それらを講義にフィードバックすることができたこともプラスに作用したのかもしれない。これらのことは、次年度以降の結果を積み重ねることで確認していきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床生理学	2	前期	必修	いいえ	118

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤学生の意見としては、「小テストを解き直した」「復習した」など、履修に積極的な意見が多かった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は77(±12)点であり、再試験後の不合格者は2名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは50%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は 12点上昇し、再試験受験による不合格者も16名から2名に減少と、大幅に改善した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「難しい内容に関わらず、授業がとてもわかりやすかった。」、「小テストが参考になった。」など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.9と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>②学生の意見としては、「難しい内容をわかりやすく講義してくれた」など、好意的な意見が多かった。今後ともさらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「臨床生化学」に引き継いでいく予定である。</p> <p>②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。</p> <p>③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。</p> <p>④配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学	3	前期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」96%、「資格取得に必要である」56%、「単位数を確保する」22%が主たる受講動機となっており、「関心のある内容である」は9%と極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるようにしている。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を示して学習の便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①本試験合格者は53名(50%)、再試験合格者は53名の受験者中52名(98%)であった。本試験の出来・不出来は、これまで試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまでの試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はかなり高く、理想的レベルに達していた。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中9項目について中央値を0.1～0.5ポイント超えており、評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」のみ3.0で、中央値を示したが、この評価項目については本科目で到達を目指したのではないので改善措置を講ずる必要はないものと判断できる。評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」がもっとも評価が高く3.5ポイントであった。これは、本科目が目指している到達目標のなかでもっとも重視しているものであり、満足行ける結果が得られた。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中3項目において中央値を0.3～0.5ポイント上回った。「評価基準が明らかであった」項目で3.5ポイントが得られており、授業でもっとも気配りした点がきちんと評価された。「参加する機会が作られていた」項目で最も低い評価2.9が得られたが、これは授業目的から外れる評価項目であるため、今後の改善措置はとる必要がないものである。</p> <p>③国家試験を受験するグループとそうでないグループの双方において達成度に差が観られなかった。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみても内容的妥当性 例年に比較して、成績評価が格段に向上していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良したい。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、最終的に配布物一覧表を渡すようにしたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②「免疫」についてもう少し理解を深めさせるために時間が必要である。講義内容が膨大であるので、課題などで対処法を検討したい。 ③配布物に対する学生の意見は取り入れ、次年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	八木康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動生理学	4	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生になって、全員が管理栄養士の資格取得を目指すわけではなく、また、不足した単位の充足のための学生が67%、科目に興味を持つ学生が17%、資格に必要な科目として受講した学生は17%で、単위가充足している学は選択しないようだ。できるだけ具体的な事例を挙げて関心を引きつけるようにしてきた。昨年度までと同様、授業の最初に学習準備状況の確認の質疑を行った。また、パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。単元毎に小テストを行い、翌日採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導するよう努めた。単元毎に授業ノートを提出させ、添削し、授業に対する緊張感と聴講する集中力を高めるよう努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は78(±15)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した者は15名と、まだまだ限られていた。 目標別に見ると、知識理解に関しては88%、思考判断に関する問題は100%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また多様な方法がある場合に、それぞれの長所や問題点を整理することを問うものであり、とくに後者の理解が十分ではなかったことを示している。さまざまな場合をイメージする力をどのように獲得していくかという課題と捉え、次年度にむけて検討したい。 学生による授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。なお、国家試験を受験するグループとそうでないグループに分けたとき、国家試験を受験するグループの平均点が5.2点ほど高かった。国家試験を受けないグループも標準レベルに達しているが、イメージのしやすさなど取り上げる事例については、さらに検討を進めたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けを工夫をする必要がある。本講の学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、思考判断として何を問っているか学生に伝わらなかった可能性を示している点は、方法的妥当性の問題である。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けたことから平均が3.3であった。事例を取り上げて検討をする機会を作ったが、じっくり考えてもらう時間は十分にとることができなかった。復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けては、第一に、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、配布物の記入箇所を工夫することで時間が作れるのではないかとというのがあった。これは取り入れていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、思考判断の面では課題を残した。この点は、後期の「健康体力評価論」で指導を引き継ぐ予定である。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、事例をじっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。</p> <p>以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。また、内容の整理を行うことで、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。</p> <p>また、配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	古田吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	132

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品学Ⅱは1年生後期に実施される食品学Ⅰに続く科目であり、管理栄養士の必須科目でもあるため、ほぼ全員の学生が受講している(受講動機からも読み取れる)。ただし、食品学Ⅰとは異なり食品学Ⅱは、実際の食品により近い内容であるため、学生に理解しやすいようにできる限り多くの具体例を挙げて説明することを心掛けた。</p> <p>②また、同時期に開講する食品栄養実習(加工食品の製法や特性について学ぶ)での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点が88点、再試験対象者が0名で、理想的レベル(90点以上として試験を作成)が全体の57%であったこと、また自由記述の意見に「講義が分かりやすかった」「楽しく学ぶことができた」等の記載が多数見られたことから、概ね「知識理解」と「意欲関心を引き出す」という観点においては、当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>「思考判断」に関しては、学生の到達度自己評価では「課題を検討する力を得ることができた」や「的確に判断する力を得ることができた」の項目がどちらも中央値が4となっており、自身の能力をある程度評価していることが読み取れる。しかしながら、実際の試験問題には思考判断を問う問題が少なかったため、学生らが食品加工全般に関する思考判断力をどの程度習得できているか判断し辛いところであった。そのため次年度は、定期試験の問題に思考判断を問う問題をもう少し多く取り入れたいと考えている。</p> <p>また同時に、(好ましいことではあるが)平均点が88点というのは少し高すぎるというのが正直な印象である。次年度は、平均点が80点程度となるよう、問題の難易度と出題範囲を工夫したいと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は専門の選択科目であるが、i 管理栄養士には必修の科目であること、ii また実際の食品に関する内容で管理栄養士資格取得希望の有無に拘らず、広く「食」に関連する仕事を志す学生にとっては非常に関心が高いことからほぼ全員が受講している。また、受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 「知識理解」と「意欲関心」の達成度については問題ないと考えられる。「思考判断」については学生の自己評価からは概ね達成できたと推察されるものの、試験における思考判断能力を問う問題が少なかったことが反省点の一つとして挙げられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方に関しては、(学生による意見討論や情報収集に重きを置くのではなく)講義中に如何に学生らが講義の内容に興味・関心を抱き、限られた時間の中でどれだけ多くの事柄を集中して学べるかということを重視して講義に取り組んだ。そのために、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見でも、「授業の説明が分かりやす」「ペースが丁度良い」「声が聞き取りやすく楽しい」等の意見が多く見られたこと、並びに授業の質評価における「説明は理解しやすいものであった」の項目の中央値が5であったことを鑑み、授業の進め方としては次年度もこの方式を採用していきたいと考えている。 プリントの記入スペースが小さかったという意見については、次年度は是非改善したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>基礎的知識の習得、意欲や関心の醸成という面では、概ね目的を達成することができた。思考判断力については、試験問題やレポート課題等を工夫することで、その能力を測る判断材料を次年度から増やしていきたい。 配布物への学生の意見についても、次年度に改善を図りたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	古田吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フードスペシャリスト論	1	前期	選択	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①フードスペシャリスト論は、フードスペシャリスト資格の導入科目であり、取得を目指す学生や資格に関心のある学生が多く受講している(学生の受講動機からも読み取れる)。そのため、学生にとって馴染みのないフードスペシャリスト資格についての内容や特徴、資格が活かせる職業分野の実状について分かり易く説明することを心掛けた。</p> <p>②また、本科目はフードスペシャリスト資格要件科目全般の網羅的な内容であるため、できる限り広範囲に広く・浅くを心掛けて教授した。</p> <p>③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>④講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点が86点、再試験対象者が0名で、理想的レベル(90点以上として試験を作成)が全体の48%であったこと、また自由記述の意見に「説明が分かりやすかった」「楽しく学ぶことができた」等の記載が見られたことから、概ね「知識理解」の面において当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。しかしながら、(好ましいことではあるが)平均点が86点というのは少し高すぎるというのが正直な印象である。次年度は、平均点が80点程度となるよう、問題の難易度と出題範囲を工夫したいと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門の選択科目であり、i フードスペシャリスト資格の取得を目指す学生や ii 資格取得に関心を持っている学生らが受講している。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 「知識理解」の達成度について、学生の到達度自己評価および最終の成績評価から問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方に関しては、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見で「説明が分かりやすかった」「楽しい授業でした」等の意見が見られたこと、並びに授業の質評価においても「説明は理解しやすいものであった」の項目の中央値が4であったことから、次年度もこの方式を採用していきたいと考えている。</p> <p>学生の中にはフードスペシャリスト資格自体をほとんど理解していない学生も多く見られたことから、次年度は1限分をフードスペシャリスト資格についての内容説明(特徴や資格取得のメリット、受験手続等を含める)と学生からの自由な質問を受け付ける時間に充て、資格に対する学生の理解度の向上を図りたい。</p> <p>また今年度は、図書館やインターネット等の情報を学修に利用した学生が少なかったため、次年度はフードスペシャリスト論全般の内容の中から学生自らがテーマを選択し、情報を収集してまとめるような機会や課題を学生に提供したいと考えている。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>知識の習得と理解という面では、概ね目的を達成することができた。 次年度は、フードスペシャリスト資格に対する学生の理解度の向上を図り、学生自らが関心のあるテーマについて情報を収集する機会を増やしたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	山田志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フードコーディネート論	3	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみ3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。そのため学生にとっては計画的に学習が進めにくいのではないかと予測される。</p> <p>②3年後期の12月に試験が実施されるため、単位を取得しているにも関わらず認定試験を受験しないものもいる。</p> <p>③今回の受講動機をみると「資格取得に必要である」が75%、「単位数を確保する」が41.7%と資格取得の意志が強く見受けられる。</p> <p>④出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、認定試験の概要について説明し、学習意欲を促すように努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された			やや達成されなかった	やや達成されなかった
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の自己評価到達度では「知識を確認、新たに知ることができた」が3.4点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は91±6.7点と全員がほぼ理想レベルに達した。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは74名中70名とまずまずの結果だった。他の科目と異なり、出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習することで、高得点が期待される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、10科目は2年生までに履修済みで、本科目を含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。</p> <p>③まとめ 以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題は無いと思われる。ただし、すでに履修済みの科目10科目の学習においては、学科として、過去問の印刷物の配布や自主学習の意欲向上に努めなければならない。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に関して特に重点を置いて学生に周知させたい。 学生からのコメントに「再試の制限をなくしてください」とあるが、保健福祉学部では4科目の範囲でしか再試の受験が認められていない。また、個人的意見として、多数の再試を抱えている場合、多くの科目を再試しても単位取得に至らないのではないかと考えられるため、要望にお応えできない。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>過去問を中心としたテスト内容で平均91点を獲得していたため、来年度の講義内容も今年に準ずることとする。ただし、課題としては、過去の出題が多い過去問内容に重点をおき、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようにスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルに達する近道であるとする。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	清末達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○		○		○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>人体の基本的構造と、その恒常性を維持するための基本的な器官・臓器の働きについて概略を学ぶため、同時進行で受講する「解剖生理学」との相乗効果を狙って、学習項目がなるべく重なるように心掛けた。</p> <p>人体を構成する運動器、泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造や働きを学ぶ。また、実験結果のまとめてグラフ化したり、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を学習する。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が100%であった。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対する肯定的な回答も、それぞれ99.0%、100%であり、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>授業の前半では、骨や筋肉の名称を覚える課題を課し、小テストを実施した。また、後半では、毎回レポートを提出させて、両者を総合して成績評価をおこなった。出席回数が基準に満たないものは皆無であり、S,A,B,C,Dの度数は、15, 46, 37, 1, 0 となった。これは多くの学生がこの科目に興味を持ち、積極的に関わったことを示すと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおける学習到達度の評価結果からみて、初年時に身に付けてほしい基礎医学分野の解剖生理学の技法や知識は、この実習においてかなり効果的に学ぶ側に伝わったのではないかと考えられる。レポートを書くため、多くの学生がインターネット検索を利用している(約40%)ことも、1年前期という開講時期からかんがえて望ましいことと言える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生からの意見として、授業の時間配分の不適切さが指摘されている。肝に銘じて 今後は綿密な授業計画を立てて臨みたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>おおむね1年次に開講する基礎医学としての「解剖生理学」の教育目標は達成 されている。来年度は、授業内容の精査と時間配分の見直しを徹底したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学実習	2	前期	必修		

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○		

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①実験を中心とした実習科目であることから、本科目では、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。今回の受講動機は、「必修科目である」98.1%、「資格取得に必要である」29.0%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は2.8%にとどまっている。今年の受講学年は、同時期開講の生化学Ⅱにおいては、比較的良好な平均点と合格率を示している。座学で得た知識や論理を以下に実践の場で、活用さらに発展させる力を養うことが、将来管理栄養士として現場で日々遭遇することになる膨大な情報、事例を客観的に把握、分析・解析し、根拠に基づいた栄養指導、治療を実現していく上で重要であることを強調して、授業を進めた。</p> <p>②例年用いている私が作成した実習書に、必要な変更や改訂を加えて配布した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
最終成績の平均は70点、不合格者は0名であった。うち、優(80点以上)の成績を修めた学生は、わずかに7名であった。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行っている。レポートでの評価内容の内訳は、知識理解20%、思考判断35%、関心意欲5%、一方、授業への取り組みでの評価内容の内訳は、知識理解10%、思考判断25%、関心意欲5%である。実験で観察して得られた事実、あるいは得られたデータを客観的かつ正確に把握し、それらを論理的に解析することにより結果を導き出す、あるいは疑問点についても論理的考察を加えることを学生に要求し、それらの点を評価した。不合格者が出ないのは、学生が実習に意欲的に取り組んでいることが最大の要因であると判断される。ほとんどの学生の取り組みに対する評価が高いからである。高得点者が少ないのは、客観性、正確性、および論理性がレポートに表れておらず、多くの学生のレポート評価が低いためであると判断される。座学に比べて実習の成績が低いのは、教科書的な丸暗記等はまじめにこなすが、予想しない結果がもたらされることが多い実験において、得られた事実を論理的に分析する力あるいは意欲が低いと考えられる。レポートの評価が低いもう一つの明らかな要因は、文章の稚拙さ、不正確さ、および用いた記号や語句の定義がなされていないなど、国語力に根ざしたものである。また、不自然に似通った文章や論理展開を含むレポートが複数見られたことも低評価の要因である。						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、学生が考える力をつけるという点(数字には表れにくい)においては、改善を目指していきたい。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。思考判断に関しては、今後の課題となる。</p> <p>全体としては、一応妥当な内容であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.9と一番低かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本年度の合格率、平均点とも例年と同レベルであった。座学の成績から考えるともっと好成绩を期待したい。学生に実践の場で考える習慣、力をつけさせる工夫を模索していきたい。次年度は、本科目が生化学の講義内容と運動していることをさらに強調し、学生の意欲促進を目指す。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	古田吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品栄養実習	2	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品栄養実習は必修科目であるため2年生の全員が受講している(受講動機からも読み取れる)。同時期開講の食品学Ⅱの内容を、実体験を通して具体的に！より深く！真剣に・楽しく学ぶ！ことに重点を置き、授業に臨んだ。</p> <p>②食品学Ⅱの講義内容を極力リンクさせること、並びにレポートの各項目ごとに課題を与えて自ら調べてまとめる機会を提供することで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③実習書や食品学Ⅱの講義でカバーしきれない内容については、適時配布資料を準備し学生に配布した。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試験対象者が0名で理想的レベル(90点以上としてレポート試験を評価)が全体の64%であったこと、また学生による到達度自己評価の全ての項目の中央値が4であったこと、さらに自由記述の意見に「説明が分かりやすく楽しい」「普段できない貴重な体験ができた」「加工の原理を知り、得られたものが大きい」等の記載が多く見られたことから、概ね当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必修の科目であり全員が受講。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 現在のところ、本科目はDP上の「知識理解」にしか該当していないが、実習レポートの提出を求めており、その中には結果考察や課題に対する解答も含まれていることから、DP-2の「思考判断」にも該当すると考えられる。そのため、次年度は該当DPの見直しを図りたいと考えている。</p> <p>③まとめ 上記②のように、本科目については次年度、該当DPの多少の見直しを図る。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方に関しては、学生からの意見の中に「説明が分かりやすかった」「いろいろな食品をつくることができ楽しかった」「普段できないような貴重な体験ができた」等が多く見られたこと、並びに授業の質評価においても全ての項目の中央値が4~5であったことから、次年度も今年度とほぼ同様な形式で進めていきたいと考えている。</p> <p>毎回のレポートの課題については、一部ポイントがズレた解答等が見られたが、これは恐らくこちらの説明不足によるものと思われたため、次年度改善したい。また、食品の加工に関する実習は、製法や原理を学ぶことだけではなく、自らが作製した食品の「美味しさ」に感動を覚えることも大事な要素の一つである。今年度の反省点は次年度に活かし、年毎に改良を図っていきたいと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>総合的に判断して、概ね目的を達成することができた。 次年度は、上記の5に示したようにDP該当カ所の若干の見直しと、上記6に示したようにレポート課題の学生への説明の仕方に改善を加えたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学実験	3	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」97%、「資格取得に必要である」56%、「単位数を確保する」26%が主たる受講動機となっており、「関心のある内容である」は9%と極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるようにしている。</p> <p>②昨年度までと同様、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって各自の理解を深め、臨機応変に課題やレポートを課すことによって要点と技術を会得できるよう便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目である「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①最終成績の平均値は86点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価47名、80点以上90点未満の優評価18名と、理想的なレベルに達している者が70%という好ましい結果であった。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中9項目について中央値を0.4～0.6ポイント超えていた。評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」で3.7(中央値を0.3をポイント下回った)を示し、受講生が新たに得た知識や技術に対して十分に手ごたえを感じていないことが示された。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中2項目について中央値を0.3ポイント下回り、次年度への課題を残した。「評価基準が明らかであった」項目で3.5ポイントが得られており、授業でもっとも気配りした点がきちんと評価された。中央値を下回った評価を具体的に示すと、(3)「説明は理解しやすいものであった」、(4)「参加する機会が作られていた」の2項目であり、次年度の改善目標項目となった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったこと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①「説明は理解しやすいものであった」の授業の質評価でやや低いポイントであった理由は、本科目が「化学」をベースにしたものであり、高校時代に化学を十分に受講していない受講生がほとんどであることが一つの大きな要因として挙げられる。次年度は実験の目的・手法・原理の説明を工夫して改善したい。</p> <p>②「参加する機会が作られていた」の授業の質評価でやや低いポイントであった理由は、本科目が「実験」という全員参加型の授業であることからすれば理解し難いので、次年度の課題として何が問題なのかを十分に把握した上で対処法を検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>①基礎実習のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については概ね達成できた。</p> <p>②受講生が比較的苦手とする化学実験であり、実験目的・手法・原理について、より判りやすくする工夫が必要であることが判った。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学 I	2	前期	必修	いいえ	111(A:56, B:55)

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」が100%であるのに対し、「資格取得に必要である」と答えたものが35%と、2つの数値に大きな差があった。この科目が、管理栄養士受験に必須であることは、最初の授業で全員に伝えているが、更に、強調するようにしたい。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずか4%に留まっていたが、栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて、説明していきたい。 ②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。 ③8コマ目に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ④授業で使用するパワーポイントの資料を修正し、よりわかりやすい内容とした。 ⑤授業の後半に授業内容を復習するための練習問題、管理栄養士国家試験の過去問とその解説を配布した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>試験成績の平均値(100点満点)は、Aクラス70点(±12)、Bクラス70点(±13)であり、本試験不合格者(60点未満)がAクラス3名、Bクラス6名であった。再試験後、最終的な不合格者は全体で1名であった。80点以上のものはAクラスで13名、Bクラスで15名、70点～79点がAクラス17名、Bクラス16名であった。昨年度と比べると、ほぼ同様の結果であった。 学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、項目(8)のコミュニケーション力・表現力(2.6点)、および項目(9)の職業倫理・行動規範(2.9点)を除いて、平均点が3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.4点、項目(5)の「専門分野における的確な判断力の獲得」については3.3点と比較的高い評価であった。項目(8)については、講義系科目の性質上、限られた時間内に多くの事柄を学ぶ必要があることから、知識理解に重点をおいた講義になるのは、ある程度、やむを得ない。項目(9)は、本科目のDPに該当しない。 また、「学習量の評価」で、約半分の学生が30分以上の復習を複数回実施していることから、本科目に対する意欲・関心の啓発がある程度達成されていると考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修、管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」が3.2と比較的高かった。学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>学生の自由記述で、「情報が多すぎそれを早口でいう」という感想があったが、限られた時間内に多くの事柄を伝えようとするためつい早口になってしまうので、その点は今後、注意して、なるだけ要点をしぼり、簡潔に説明するようにしたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門教育科目・専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、思考判断の面では、時間的な制約もあり、課題を残した。この点については、講義の焦点を絞って、できるだけ学生自身が内容を整理し、考える時間をとれるようにしたい。また、復習課題を提示するようにしたい。</p> <p>配布物については、学生の意見は取り入れて改善を図るつもりである。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	3	前期	必修	はい	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が98%、「資格取得に必要である」が60%となることは、当然の回答であり、「関心のある内容である」が14%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ(2年後期)の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、講義内容に興味を持つことが出来た等意見が出てきている。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は95名の受講生中、A(秀)が13.6%、B(優)が34.7%と多く、C(良)30.5%と優の次に多かった、D(可)が18.9%で、不可の学生は2名だけであった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、13.6%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、51%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後は予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である。卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、51%の学生が予習・復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は55%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だという思いが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の88%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。また、学生の意見の中に「板書がはやい」という意見があった、これに関しては、一昨年度にも同じ要望があり、板書スピードを遅くした経緯がある。授業の進行上、個々人のノート記入スピードに合わせた対応は難しいため、ノート記入が間に合わなかった学生に関しては、復習時に友人からノートを見せてもらう、担当教員に聞くなどの自己学習を行うよう促している、今後もそのように促していく。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年後期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからは講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	久保由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は管理栄養士国家試験受験資格取得のための必修科目であり、臨地実習Ⅱ・Ⅲの要件科目でもあることから受講動機は「必修科目である」98.7%となっており科目に対する意識は十分に持ち合わせているものと推測される。しかしながら管理栄養士国家試験受験に対して自信を持ってなくなっている者もいるためか、「資格取得に必要である」65.8%となっていることから学習意欲に差が生じると考える。栄養士免許者においても栄養教育は基本的業務であることから、具体的事例を示し栄養教育マネジメントが理解できるよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は68.5(±7.5)点であり、再試対象者は8名であった。B評価4.2%、C評価42.7%、D評価43.8%となっており全体的到達度自己評価は「達成した」としたものが89.2%であった。一方到達度自己評価においても8%が「自分なりの目標を達成できていない」としており、予習・復習時間に対する回答も「0回」、「1回」が80%の回答をしている。自己学習により理解を深めることができるよう課題を課すなど工夫が必要と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の専門分野であり、栄養教育は栄養士・管理栄養士として活動するすべての分野に必要とされる人を対象とした業務である。知識、技術、態度の醸成を目的としている。「学習到達度の自己評価」において各項目「やや達成された」90%前後の評価をしており内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.9と低かった。事例に対して意見交換できるよう場面設定し、自分で考える力を身につけられるようにしていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>同時期開講の専門分野の他科目と進捗状況が同時であったりすることもあり、情報に対する新鮮さにかける傾向にあり、このことが予習、復習に対する意欲が失われる要素となっていると推測される。科目としての対象者の捉え方、対応について課題の提示など工夫をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は選択科目であるが、栄養士および管理栄養士受験資格の必須科目として位置付けられているため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。本科目では、授業の課題以外学習していない学生が半数程度見られた。栄養学科3年前期は開講科目が多く、臨地実習前ということもあり課題の多い時期である。自由記述でも学習をしていない理由に「他の課題が多いため」とあり、十分な時間を確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度は明確に課題の提示を行う必要があると考えている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の最終的な成績の平均値は75.2(±8.0)点であり、再試験該当者は2名であった。標準的レベル(70点以上)に達したものは45%、理想的レベル(80点以上)に達したものは33%であった。到達度自己評価では約97%の学生がすべての項目において、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価しており、全体を通して項目に差がないことが示された。試験内容としては、すべて講義内容からの出題であり、さらに小テストで出題した問題も含んでいたため、講義内容の知識の修得は概ね達成されたと考える。しかし、試験中の思考判断に関する問題の点数が全体的に低かったため、次年度は授業の中で学生自身が考える時間を増やすように検討したい。また、本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としているため、コミュニケーション力や表現力を高める知識・技術の修得が必要である。しかしながら、コミュニケーション力や表現力を高めることができたかの項目では、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生は53%であり、約半数は十分に達成されていなかった。来年度はコミュニケーション力、表現力を高めるために、ロールプレイの時間を増やすなどの改善をしたいと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であり、管理栄養士国家試験の栄養教育論の中で出題される分野である。特に管理栄養士として就職を考えている学生にとっては、本科目は必ずしも身に付けておくべき分野である。学生の達成度自己評価においては、全ての項目において約97%の学生が達成したと回答しており、また最終成績においても78.2%の学生が標準的レベルに達していたため内容的妥当性については問題ないと思われる。しかし、科目の特性を考えるとDP5[技能表現]に対する達成度の全体レベルを上げるために、ロールプレイを充実させる等内容を深めていきたい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.3で他の評価と比べ低い値であった。次年度より、口頭や質問用シートを配布するなど質問の機会を作るなど改善していきたい。また、自由記述として、教科書を読んだだけだったとの意見が挙げられた。資料の配布や事例に基づく説明、ロールプレイ等を取り入れて授業を組み立てたが、教科書を基とした授業の展開であったため、次年度は内容を再検討したい。また、発表の評価基準がわからなかったとの意見が挙げられており、発表を行う際は事前に明確な評価基準を説明し、さらに発表後のフィードバックでは評価のポイントをわかりやすく説明するようにしたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識の修得が達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないと考える。しかしながら、思考・判断に課題を残したため、事例を検討する時間を増やし、予習課題の提示などで改善を図りたい。また、コミュニケーション力や表現力を高めるためにロールプレイを効果的に実践できるよう工夫に努めたいと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	近江雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、半数程度の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の準備も十分でなかった。栄養学科3年前期は開講科目が多く、学外実習が始まる時期でもあり、学生も多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度は何らかの課題の提示を検討したいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>本科目の本試験成績の平均値は63(±13.8)点であり、本試験合格者は全体の68%であった。また、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、33名(33%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は12名(12%程度)であった。試験内容としては、全て講義内容からの出題であったものの、標準的および理想的レベルに達成できた学生が少なかったことは、次年度以降の講義内容ならびに教授方法の検討が急務であることが明らかとなった。しかしながら、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。学生としては修得できたとの認識があったものの、試験による評価において十分な成績を得られなかったのは、的確な知識の修得ならびに理解ができていなかった結果であり、次年度は学生のより一層の理解を深めるために、重要なポイントを絞り、解説を行いたいと考える。また、知識の確認のため的小テストならびに中間テストの導入も検討したい。技術・表現の修得については、達成できた学生は約70%程度であったことは、講義形式の授業では致し方ないと思われるが、今後はより具体的な事例を提示することにより、学生の理解を深めるよう努力したいと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、30問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の「職業選択」の項目において、全員の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えられ、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。しかし、DP5[態度]に対する達成度自己評価は、他のDPに比し低く、このことは、本科目の内容が知識の教授に偏在している可能性が示唆され、次年度は管理栄養士として身につけるべき知識・技術のみならず、態度等についても、関連付けながら伝えたいと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目では板書での記録としているため、自由記述として、板書のスピードが速いとの意見が挙げられた。このことは、取り入れるべき意見であり、余裕を持って記録を取ることができるよう、配慮したい。また、板書での記録としているため、大多数の学生は自分なりのノートを作成したとの回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書での記録は今後も続けていきたいと思う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、30問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ずしも身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であるものとする。また、学生の理解度を量るために、小テスト等の評価の導入を検討する。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食計画論	2	前期	必修	はい	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士および3年次学外実習の要件科目であり、専門科目としては初期に履修する科目である。以上のことから、履修同期としては「必修科目である」が99.1%を占める。</p> <p>②管理栄養士として栄養・食事管理を計画する過程を学ぶ科目であるため、専門的な用語や算定方法が多数出てくるため、講義だけでなく演習を取り入れながら理解を促すことに努めている。</p> <p>③「学習準備性」においては、予習よりも復習に重点を置かせたため、学生自身の事前の準備性は低い状態であった。しかし、復習に重点を置かせる指導方針は、今後も継続したい。</p> <p>④本科目は、後期科目「給食経営管理実習Ⅰ」の準備科目としての位置づけもしており、実習内容を意識させながらの講義を行っている。実際に、3年生前期科目「給食経営管理実習Ⅱ」で提供される給食の試食も義務化しており、栄養・食事管理の実際に触れる機会としている。今後の継続していくこととする。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された	やや達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価の平均値は69.8点であり、再試対象者は30名であった。「知識理解」が標準レベル到達していない者が再試対象者となっており、評価が低くなる要因となっている。授業評価の「授業の質評価」および「到達度自己評価」を見る限り、講義内容には満足しているようであるが、理解までには至っていないことが考えられる。そのため、項目ごと的小テストを実施することで、内容の整理と理解を促すことを検討したい。一方で、「学習量の評価」では、80%前後の者が、予習・復習・授業以外の学習の取り組んでいない状況であった。理由としては、「他教科の課題があり時間がない」とき意見が大多数を占めており、限られた授業時間の中での知識の定着を促す授業展開の必要性を感じている。</p>
---	--

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門応用分野としての位置付けであり、その導入的な科目である。学生の専門分野への関心を向上させる意味でも重要な位置づけを持つと考えられるため、得られた知識を実践につなげることができるように演習を併用することは一定の効果を得ていると考える。</p> <p>②DP、授業評価内容からの妥当性 「知識理解」に関する最終評価が良好であるとは言い難いが、「意欲・関心」に関しては好感触を得ている。また、授業評価からは「専門分野おいて的確に判断できる」「学びを深めたいと意欲をもった」としたものが80%前後いた。</p> <p>以上もことから、内容的妥当性は問題ないと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、国家試験関連科目および後期実習の準備科目として、説明すべき項目が多くある。そのため「意見をまとめる、話し合う」といった方法を導入し難い。「授業の質評価」の点でも、その点が指摘を受ける結果となった。しかし、演習を取り入れることで「自分で考え、結果を導く」ことはさせており、改善点であるとは考えていない。今後は、演習の内容をさらに詳細なものに改善することを検討している。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本学科の2年次前期という時期は、専門科目が多くなり、学生が今後の進路の適正に関して不安を抱く時期でもある。講義で得られた知識が、実践へと移行している現場を観察してもらうため、3年前期・給食経営管理実習Ⅱで提供される給食の試食を義務付け、専門科目への学習意欲の向上を狙っている。その結果、「到達度自己評価」における「専門分野」に関する項目では、平均点が3.5を超えるものがほとんどであった。一方で、「学習量の評価」では、予習・復習ともに取り組めていない現状が明らかとなり、講義後の課題の提示の必要性を感じた。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	坂巻路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学実習	3	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養学実習では、医療現場等における栄養マネジメントの考え方を実践的に理解し学ぶことを目的としている。本科目は管理栄養士必修科目である。今回の受講動機では「必修科目である」が97%、「資格取得に必要である」60%であった。授業の準備性については43%、復習については50%の学生が殆ど行っていないかった。そのため、次年度以降は、予復習の取り組みの状況を改善できるような教材について検討を行う。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合的な成績の平均値は78.3(±9.1)点であった。再試対象は5名であった。本試験の成績については標準的レベルまたは理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したのも多かった。学生による授業評価においては、約90%が新たな知識を得ることができており、自分なりの目標を達成している。また、学びを深めたい者、様々な課題を検討する力を得た者も90%を超えており、自己評価については、どの項目もあまり差が認められなかった。学習の準備性については、4割を超えるものが予復習を行っておらず、また半数以上が授業の課題以外への自発的な取り組みは行っていないかった。そのような状況で、調理作業を行った、自分の献立を事前調理した、と本実習に対し積極的な自由記述もあり、学習の準備性と関連し、その動機づけについても検討を行っていく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術の実践的な学びを目指している。学生による授業評価においては、約90%が新たな知識を得ることができており、また、専門分野で必要となる技術を身につけることができています。成績評価においては、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>・DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度は高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>自由記述では、教材によっては文字が見えにくいという意見があり、これは文字を拡大し、改善していく。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術が実践的な学びに繋がっていくことを目指している。学習到達度の自己評価において、90%以上が目標を達成し、新たな知識を得て、的確に判断する力を得ることができたと回答している。次年度に向け、効果的に予復習を進めることができる、またはその動機づけになるような教材を検討する等、実習内容について改善点を検討しより良い内容を構築していきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	山田志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	2	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは調理技術を学生自身が実践し、応用力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため出来るだけ種類の料理を作る機会を与えるため、1年の基礎調理学実習のような師範にすべてゆだねるのではなく、講義内容はテキストでの説明とポイントのみに絞り、自ら作れるよう促した。</p> <p>②応用調理学ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという、科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。</p> <p>③事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。</p> <p>④学生からのコメントに計画性、実習予算、師範についてかなりのクレームが上がった。今年は初年度だったため、前任者の行った実習内容と重複しないよう献立を配慮し、また、上記①に示したように学生が自ら、多種のメニューを作れるよう、師範をすべて行わず、ポイントだけに絞るという実践優先の実習形式とした。しかし、全部の師範を行っていた前任者の実習形式しか知らない学生は師範が無いことに非常に不安を抱いたのではないかと思われた。予算に関しても、前年度の仕入れ業者の出納の控えがないため単価や取引業者の食品納品内容の特徴がつかめず、昨年度の収支明細なども見れなかったため、初年度としては非常に苦慮した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績平均値は82±6.2点と全員が標準レベルに達した。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは110名中69名であった。</p> <p>学生の学習到達度を見ると、「自分なりの目標に達した」が3.5点、「知識を得た」が3.4点、「的確に判断する力を得た」は3.4点、「学びを深める意欲」3.4点、「技術を身につけた」が3.3点であった。さらに、授業の質の評価では上記にも記述した通り、前任者と全く異なる実習形態をとったため、「説明は理解しやすいものだった」が2.7点と低かった。以上のことより、調理技術のレベルは標準レベルであるが、筆記試験の結果より、調理科学理論や調理方法などの習得が弱いと推察された。このことは今後、1年生からの指導教育を踏まえ、改善する余地がある。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年次の基礎調理学実習と2年次の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくすことは苦慮するところである。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考えた。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、実技試験を取り入れたことで授業外での具体的な取り組みが充実していた。今後さらにとり入れる方向で検討したい。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が2.6と低かった。1人1人が献立作成を行い、グループワークにより班ごとのオリジナル献立を考え、作成するなどの実習も取り入れたいが、献立作成、栄養価計算、発注等を考えると、十分な時間を与えることができず、実習の中に組み込むとなると苦慮するところである。来年度は初回1～2週目の演習で組み込むことを検討する。</p> <p>学生からのコメントとして、計画性、実習予算、師範についてかなりのクレームが上がった。今年は初年度だったため、前任者の行った実習内容と重複しないよう献立を配慮し、また、学生が自ら、多種のメニューを作れるようになるため、師範をすべて行わず、ポイントだけに絞るという実践優先の実習形式にした。しかし、全部の師範を行っていた前任者の実習形式しか知らない学生は師範が無いことに非常に不安を抱いたのではないかと思われた。予算に関しても、前年度の仕入れ業者の出納の控えがないため単価や取引業者の食品納品内容の特徴がつかめず、昨年度の収支明細なども見れなかったため、初年度としては非常に苦慮した。後期からは中級・高級などの食品価格により指定可能な業者を新規導入した。また、学科内で、実習予算の値上げについて提案したが、来年度まで積算基礎が無いため、現状維持にとどまっている。また、学生の調理技術のレベルが実際に実習を行ってみたいとわからなかったため、最初に提示していた課題も学生の負担を考慮し、中止したのが現状である。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。しかし、調理科学理論や調理方法などの習得が弱いと感じたため、①初回は1年次の基礎調理実習の復習を踏まえた実習内容にする、②15週の間でアンケートを取り、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。</p> <p>計画性、実習予算、師範の実演など、実習内容に関する課題を後期より早急に改善し、来年度は目標を達成する。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	久保由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習 I	3	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施に当たり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は栄養士免許取得・管理栄養士国家試験受験資格取得のための必修科目である。受講動機は「必修科目である」98.7%となっている。講義科目に比較し予習・復習をした回数が「2・3回以上」が多くなっている。また、「授業以外に学習に取り組みましたか」14.8%となっており、媒体作成など授業時間内では終了しないものに対して意欲的に取り組んだことが窺える。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の試験及び実習から評価した平均点は73.5(±10.3)点であり、A評価1%、B評価22.6%、C評価46.2%、D評価28%、E評価2.2%であった。全体的到達度自己評価に「達成した」としたものが98.9%であった。初めての栄養教育の実習に対して積極的に臨んだ結果、達成感が得られたのであろうことが窺える。安易な方法で引用するのではなく、自分なりの工夫を自己開発できるようになることも必要であると考え、その為に図書館の利用やインターネット情報は70%と回答されているがさらに深く考えることができるよう文献検索も取り入れることを工夫したい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の専門分野であり、栄養士・管理栄養士必修となっている。栄養教育は栄養士・管理栄養士として活動するすべての分野に必要とされる人を対象とした業務であり、知識、技術、態度の醸成を目的としている。「学習到達度の自己評価」において各項目「やや達成された」95%以上の評価をしており内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>臨地実習Ⅰの為に準備科目である「総合演習Ⅰ」と同時期開講であり、「総合演習Ⅰ」においても実習先課題として栄養教育が準備され本科目の進捗と同時期になっている。それぞれの科目のねらいは異なるのであるが、学生としては混乱しやすい状況となっているようである。「総合演習Ⅰ」担当教員と協議し進捗を考えたい。また課題の添削指導の方法も効率よく理解が十分できる方法を検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、学友が対象者ではあるが初めての栄養教育を経験する場である。栄養士・管理栄養士として適切な指導が行えるよう知識、技術、態度を習得することを目的としている。緊張感をもって真摯に取り組んだ者に達成感が得られることを体験し臨地実習へと繋げ、また自分の考えを他に伝えることができるよう意見交換の場を多く設定する等検討したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習 I	3	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施に当たり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②授業の最初に学習準備ため、オリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の終了後レポートの提出を義務づけ、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する実習書を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>実習の成績の平均値は田川担当が43(±2.5)点(50点満点)、南里担当が40(±1.7)であり、不合格者はいなかった。理想的レベル(80%以上の得点)に達したものは田川担当で84名、南里担当で62名と60%を超えた。昨年度と比べると、平均点はほぼ同等であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「自分なりの目標を達成した」の平均点が3.3点と高く、3名を除いておおむね自分なりの目標を達成できていると答えている。この点からも、教育目標は達成されたと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、必修である。国家試験の応用問題に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。レポートにて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績は高く維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.3、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均が3.4と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深め、技術を身につける努力をするとともに、学生がより積極的に実習に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>学生の意見としては、「レポートを具体的に取り組んだ」という、好意的な意見をいただいた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①専門応用科目にあたる本科目の位置づけから、臨床的知識の形成については概ね達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「臨床栄養学実習Ⅱ」に引き継いでいく予定である。</p> <p>②授業過程を振り返ってみたとき、レポート課題を課したことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。</p> <p>③毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、レポートの課題の改善にて復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。</p> <p>④配布物(実習書など)に関しては、学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅱ	3	前期	選択	はい	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士・栄養士の要件科目であり、2年後期・給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰとする）の発展科目である。履修同期としては「必修科目である」が92.5%を占め、「資格取得に必要」が68.8%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②給食施設としての栄養食事管理の分析・計画・実施・評価・改善を行わせる内容であるため、学生の自主学習が実習進行度に影響を及ぼす。実習Ⅰから準備期間とし、学生が自主的に実習計画を立てることができる状態まで指導を行っている。③実習の性格上、時間外の作業が多い点で一部の学生から不満が出ていたため、あらかじめ時間外の活動が必要となる点に関しては、オリエンテーションで再度説明を行った。授業時間外の活動を省くことは、実習を運営する上で、困難である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価の平均値は88点であり、再試対象者は0名であった。授業評価の「到達度自己評価」を見る限り、専門分野の実践力が修得できたと回答した者が多く、すべての項目で3.7～3.8の平均値を示した。これは、専門科目への学習意欲の向上を示していると考えられ、また、「学習量の評価」でも、76%の者が予習に取り組んでおり、授業以外の学習時間を自主的に設ける状況であったことは、DP3意欲関心の達成に結びついていると考える。さらに、複数の課題を課していることから、半数近くの者が情報の検索に図書館やインターネットを利用しており、DP2の思考判断の向上の一助となったと考える。</p>
---	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は専門応用分野としての位置付けであり、3年後期に控える「臨地実習Ⅰ」のための総括となる実習である。給食の経営管理を行うに当たっての専門知識の習得とその実践力を身につけることが目的となるが、「知識」「意欲」「態度」ともに理想レベル(80点以上)に到達できたものが93%いた。「到達度自己評価」においても、「目標を達成した」としたものの割合が88%であり、教員側の評価と学生自身の評価に差異が認められないことから、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本実習は、時間外の活動が多く、また、授業開始時間も通常よりかなり早い時間に設定している。そのため、学生への時間的な制約が大きくなる点は、実習計画の段階から懸念している事項である。しかし、臨地実習Ⅰに必要な知識・記述の習得の重要性を考えると、現行の計画を変更することは困難であると結論付けざるを得ない。幸い、「到達度自己評価」および「授業の質評価」ともに、平均点は概ね3.8前後と高評価であり、早急に間然する必要性は感じない。しかし、学生への十分な説明と理解を得た上での実習進行に努めたいと考える。</p> <p>一方、学生の意見としてスタッフの人手不足を指摘するものがあった。この問題に関しては、スタッフ間での事前の打ち合わせをさらに詳細に行うことで解消していきたいと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本実習では、実習の計画と同時進行で、多くの課題の提出を義務付けている。他教科の課題と提出時期が重複することも多かつたらしく、提出された課題の質にも影響が出ていたように思う。指導者側としても、十分な個人対応ができなかったため、少なからず課題の質の低下の一因となったと考える。次年度は、課題の量と内容を再検討し、十分な指導が行えるような体制を整えたいと考える。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習 I	3	前期	選択	はい	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年後期・臨地実習 I の事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が89.7%を占め、「資格取得に必要」が66.7%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②臨地実習に向けての、一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習という広範な内容を盛り込んでいることから、オリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。</p> <p>③特に、臨地実習に向けての種々の準備を行う時期に関しては、学生自身にスケジュール管理を徹底するように指導し、随時、一斉メールを利用することで周知を図っている。</p> <p>しかし、②に示したように広範な内容を15回の指導で完結しなければならないため、学生視点からは一貫性に欠けるように感じたように思う。種々の指導の時期などを再度検討しなおすことを考えている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価の平均値は79点であり、再試対象者は0名であった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等に関しての自己評価は3.5～3.6であった。本科目の到達目的・目標への理解が得られており、確実に標準レベルまでには到達できているものと考えられる。また、「学習量の評価」でも、75%の者が予習に、65%の者が復習に取り組んでおり、授業以外の学習時間を自主的に設ける状況であったことは、DP3意欲関心の達成に結びついていると考える。さらに、課題への取り組み状況から、多くの者が指導教員のもとへ時間外に自主的な質問に訪れており、DP4の向自己研鑽への意識の向上に繋がったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、3年後期より開講されている臨地実習 (Ⅰ～Ⅲ) の準備科目である。特に臨地実習Ⅰは、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けでありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。また、本来であれば、本科目と同時進行または以前に開講されるべき科目が後期開講となっている。そのため臨地実習Ⅰで必要とされる専門知識の指導が十分に行えない現状にある。以上のことが、最終評価が「標準レベル」であり「理想レベル」まで到達できなかった要因と考える。</p> <p>② ①の要因が大きく影響するのがDP5の技能表現であるが、成績評価でも技能表現に関しての評価に学生個人間でばらつきが生じた。次年度では、未修得の専門知識のフォローに重点を置くことを検討したいと考える。</p> <p>従って、内容的妥当性の面では、次年度への改善点を多く含むため、再評価を行うこととする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」では、「説明の理解しやすさ」が若干低い評価となった。これは先の項目までに要因分析したように、社会規範から専門知識までという広範な内容を指導しなければならないという点が影響を及ぼしていると考え。各回の内容と実施する時期を吟味しなおし、スムーズな理解につなげることができるように授業計画の改善を行うこととする。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習(臨地実習Ⅰ)で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。しかし、専門知識の振り返りには、自宅学習形式の事前学習ノートの作成を中心としたため、十分な時間を割けたとは言い難い。事前学習ノート作成に関する指導を行う時間を授業計画に組み込む必要がある。一方で、社会規範に関しては、外部講師によるマナー講習を実施するなど、担当教員からも十分な指導が行えたと感じており、目標とする理想レベルに近い状態まで到達できたと考える。臨地実習Ⅰの後に続く、臨地実習Ⅱ・Ⅲで指導を継続していただきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	近江雅代、天本理恵、坂巻路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、応用栄養および臨床栄養の栄養学分野において、最新情報を解説する。臨床栄養については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。また、応用栄養分野では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は「必須科目である 72.6%」「資格取得に必要である69.4%」との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、半数程度の学生がほとんど準備をせずに受講し、また、事前・事後学習の時間を確保していなかったことから、次年度は事前事後学習のための資料の配布ならびに確認テストの導入を検討したい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の本試験成績の平均値は71(±5.0)点であり、大多数の学生が標準的レベル(70点以上)に達することができたものと推察される。一方、理想的レベル(80点以上)は14名(20%程度)であった。学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができており、また、授業の課題以外に国家試験問題に取り組んだとの自由記述が複数みられたことから、大多数の学生が標準的レベルを達成できたものと推察される。しかし、80%程度の学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかったことは、次年度の課題として、小テストおよび中間テストの実施等といった何らかの知識確認の必要性が明らかとなった。また、自由記述として「復習で精一杯だった」との意見があり、講義内容のボリュームが多かったことが予測され、1回の講義内容の量的検討も必要であると考えられる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、臨地実習ⅡⅢを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても標準的レベルを超えていたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。しかし、DP4[態度]に対する達成度自己評価は、他のDPに比し低く、このことは、本科目の内容が知識の教授に偏在している可能性が示唆され、次年度は管理栄養士として身につけるべき知識・技術のみならず、職業倫理等の態度等についても、関連付けながら伝えたいと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>自由記述として、本科目の臨地実習Ⅱ以前の開講を希望する意見が挙げられたが、カリキュラムの構築上、本科目は4年間の学びの集大成との位置づけであり、これまでに培った知識や経験を基礎として、問題解決能力、論理的思考能力を養うこととなっている。しかしながら、学生からの臨地実習Ⅱへ意欲的意見として受け止め、臨地実習Ⅱのための事前指導の内容の参考にしたいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、臨地実習ⅡⅢを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績も良好であり、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての問題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策が必要であると思われ、次年度に向けて、学習資料を作成する予定である。また、1回の講義の容量についても、再度検討し、学生のより良い学びのための改善を行いたいと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習 I	4	前期	必修	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生になって、国家試験の受験を目標に、公衆衛生学および病態医学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学および病態医学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は71(±11)点であり、再試験の不合格者は2名であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは60%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等であった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、管理栄養士必修科目である。すなわち管理栄養士国家試験を受験するには必須であり、学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.6と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。</p> <p>学生の意見としては、「授業内容を確認するだけでいっぱいだった」など、授業内容としてはかなりハードだったようである。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門応用科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習Ⅵ」に引き継いでいく予定である。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。</p> <p>以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。</p> <p>配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、後期の「管理栄養士演習Ⅵ」や来年度にむけて改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	清末達人、尾上均、南里宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	前期	必修	いいえ	72(A:36、B:36)

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」が76.6%、「資格取得に必要である」と答えたものが73.4%とほぼ同じである。関連科目である演習Ⅰ、Ⅲについても、ほぼ同じ結果である。これらの科目は、卒業必修ではないが管理栄養士国家試験の受験資格に必須であるので、管理栄養士を目指す学生にとっては、「管理栄養士資格取得のために必須である」と考えて受講していると思われる。ただ、そのような考える学生が4分の3にとどまっているのは、まだ、管理栄養士を目指す気持ちが確定していない学生が約4分の1いるということでもあるので、なるべく早い時期に将来の方針を決定して、そこに集中するように、後期での指導が必要と思われる。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずかに4.7%に留まっていたが、解剖生理学、生化学、基礎栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していくことが重要だと思われる。</p> <p>②解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学学生への苦手とする科目であるが、これまでに学んだ内容を復習するためのオリジナル練習問題、管理栄養士国家試験の過去問などを題材に、ただ単に丸暗記するのではなく、からだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てることを念頭において講義している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均点は、81点(±6)で、全員、本試験で合格した。80点以上のものが49名、70点～79点が19名で、70点以上が全体の94%を占めた。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、関連のある項目は(項目(8)および項目(9)以外)平均が3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.4点と比較的高い評価であった。</p> <p>また、「学習量の評価」で、70%以上の学生が30分以上の予習および復習を複数回実施していることから、本科目に対する意欲・関心の啓発がかなり達成されていると考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」であり、管理栄養士国家試験受験資格の取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」は、それぞれ2.9、3.1、3.0であった。解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学学生の苦手とする科目であるので、よりわかりやすい説明を心掛けていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら演習を進めていく必要がある。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅲ	4	前期	必修	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象としたものであり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握するよう設計されている。従って、受講動機が「必修科目である」68%、「資格取得に必要である」72%に偏っていることは当然として理解できる。</p> <p>②4名の教員によるオムニバス形式の授業であり、全体の様式を統一して受講生が戸惑わないよう配慮して学習の便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であり、前期においては国家試験の過去問の理解に重点をおいて授業を実施している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①最終成績の平均値は86点であり、再試対象者は1名であったが、該当者は再試験において合格している。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価29名、80点以上90点未満の優評価33名と、理想的なレベルに達している者が86%という好ましい結果であった。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中8項目について中央値を0.1～0.4ポイント超えていた。評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と(9)「職業倫理や行動規範」において中央値を僅かに下回った(それぞれ0.4ポイントと0.3ポイント)が、これらの評価項目は、本授業が到達目的としているものとは異なっており、改善策を講じる必要はないものである。「授業の質」評価については、(4)「学生が参加する機会が作られていた」で2.6ポイントと中央値を0.4ポイント下回ったが、教員間で差があると考えられるので、次年度の課題として残したい。また、(5)「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」については2.7ポイントと中央値を0.3ポイント下回った。これについても、次年度への課題として残り教員間で対策を検討したい。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」ともに達成度が高かったこと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①国家試験の結果が本科目のすべてであるが、全国模試や校内模試の結果を観て、本授業の質的判断と対策を練りながら授業を進めている。今後もその方針は変えない。 ②学生から「質疑応答の時間が足りない」との指摘が挙がっており、これは緊急に対応を考える必要がある問題であるので、個々の教員ごとに各々何らかの策を講じて対処したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>一昨年までは結果の伴わない状態であったが、昨年よりさまざまな問題にそれぞれ工夫を施して対処した結果、受講生の成績評価が一気に向上し、国家試験の結果にも反映した。今年度も昨年と同様に実施し、良い結果が得られている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	山田志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅲ	4	前期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業はオムニバス形式で計4名の教員で管理栄養士国家試験教科「食べ物と健康」および「応用栄養学」の分野の出題傾向と重要点を説明する。 ②国家試験の出題問題を中心に各教科ごとの問題をテストし、解答と解説を行う。 ③管理栄養士国家試験教科の調理学分野の出題傾向とポイントを解説する。 ④調理学は1年後期で履修済みのため、復習を兼ねた講義形式とし、出題傾向の多い項目や問題を取り上げて解説する。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は86(±57.9)点であり、再試対象は1名であった。ほぼ全員が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したのは72名中62名であった。国家試験合格水準に到達していない10名も今後の指導が必要である。学生の自己評価到達度を見ると「知識を確認し新たに得ることができた」が3.6点、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」が3.6点と高かった。授業の質の評価は3.5点、「説明は理解しやすいものであった」は平均値が3.6点、中央値も4.0点と高かった。国家試験受験科目であるため、平均値だけでなく中央値も参考に特に成績下位学生も視野に入れ、合格水準まで全員の点数を引き上げることが重要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は管理栄養士国家試験に必要な「食べ物と健康」および「応用栄養学」の分野である。主に食品学、食品衛生、調理学、応用栄養学の4科目からなりオムニバス形式となっている。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 過去問より出題傾向と重要点を説明し、国家試験において80%の正解率を出せるよう指導している。国家試験では60%の正答率を発揮できるよう指導する。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生のコメントにあるように、ひたすら過去問をとき、くりかえし復習し、問題に慣れることが重要である。調理学は1年後期の早い時期に単位を修得しているため、国試内容に的を絞った講義を行い、出題傾向の高い問題を周知させる。また、国家試験受験日までの期間、学習指導のみならず、生活面や心理面からのサポートも重要である。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>管理栄養士国家試験受験を希望する学生であるため、86%が合格基準に達しているが、合格基準に達していない14%の学生に対しては、指導教官やアドバイザーからのケアも必要であると考えられる。また、本科目は、管理栄養士国家試験受験科目「食べ物と健康」および「応用栄養学」の分野であるため、今後も出題傾向と重要項目を理解し、変更点や新規の内容に関して早急に指導することが重要である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	近江雅代、久保由紀子、坂巻路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅳ	4	前期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の「栄養教育論」および「臨床栄養学」分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の選択科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は「資格取得に必要である」との理由が80%を占めている。にもかかわらず、授業準備性について、半数程度の学生がほとんど準備をせずに受講し、また、事後学習の時間を確保していなかったことから、学生自身の学習レベルの程度に対する気づきを促すために、次年度は講義前の確認テストならびに中間テストの導入を検討したいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は73(±11.5)点であり、大多数の学生が標準的レベル(70点以上)に達することができたものと推察される。一方、理想的レベル(80点以上)は19名(27%程度)であった。学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができており、また、授業の課題以外に国家試験問題に取り組んだとの自由記述が複数みられたことから、大多数の学生が標準的レベルを達成できたものと推察される。しかし、より多くの学生が理想的レベルを達成できるためには、学生が自身の知識の習得状況を確認することが必要であると思われ、次年度の課題として、講義内でのテストの実施を検討している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結していることから、自由記述の中には、本科目の内容を国家試験の勉強のための1冊の本にまとめたとの意見もあり、知識習得に対する学生の積極性が窺えた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の選択科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても標準的レベルを超えていたことから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の選択科目であるため、学生自身が知識の習得を確認することが必要である。坂巻担当時の進め方につき、国家試験のテーマに沿って講義形式あるいは解説を教員のみではなく学生も行う形式で行った。教員の解説と併せて、学生にも正答を導き出すための解説を考え、理解が深まるよう配慮したが、「解説をさせる」という受け止め方の意見も挙げられていたため、趣旨を十分に説明する必要性があると考え。専門知識の修得に向け、より理解が深まるような演習の進め方を次年度に向けて検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の選択科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の資格取得のための科目として位置づけられていることから、学生の成績も良好である。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、講義内容等についての問題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生自身の学習レベルの程度に対する気づきを促すために、次年度は講義前の確認テストならびに中間テストの導入を検討したいと考える。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	青木 るみ子, 境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅴ	4	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士国家試験に向けての対策科目であり、公衆栄養学と給食経営管理論から成る。履修者は、国家試験受験を希望する者であるため、学修準備性はある程度高い状態である。初回には、前年度の国家試験問題に取り組みせ、解説することで、担当科目の全体像を把握させている。項目ごとの講義に努め、過去問を活用した授業を展開している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>演習Ⅰ～Ⅴを通して、国家試験の全科目を同時に学習していき、かつ本科目は必修ではなく選択科目であるため、学生から見た重要性は大きくないと思われる。その影響からか、成績評価では平均点は68点であり、再試験対象者が46人となった。「学習到達度の自己評価」でも「目標を達成した」の平均値が3.1と低く、学生自身も十分な取り組みができていないと自己評価している。「学習量」でも、「0～1回」の者が54%と半数強であった。次年度以降は、家庭学習を促進する取り組みを検討したい。一方で、「学習到達度の自己評価」の「知識の確認、修復」に関しては平均点4.0と高く、DP1の達成に向けての動機づけはできたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は国家試験受験のための演習科目である一方で「選択科目」の位置づけとなっている。そのため、学生によっては動機づけが難しい場合がある。学習習慣が身につけていない学生にとっては複数科目を同時進行で学ぶ中、選択科目まで手が回らないケースも出てきている。内容的妥当性を評価する上でも、これらの学生への対応を工夫することが必要となると考える。</p> <p>②DP、授業評価内容からの妥当性 DP1知識理解に関する最終評価が良好であるとは言い難いが、自己評価では「知識の確認、修正ができた」としており、DP3意欲・関心に関しては、自己評価で「学びを深めたい」の平均値が3.8と高く、好感触を得ている。</p> <p>以上もことから、内容的妥当性は問題ないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、教員の2名によるオムニバスのため、「授業の質の評価」をどのように判断したらいいのかが難しい。学生からの意見も、教員を指名して意見されているなら対応もできるが、どの教員に対しての意見が判断がつかない内容に関しては対応し難い。</p> <p>担当分野では、過去問を項目ごとにまとめ、取り組ませた後、解説という流れで講義を行っている。そうすることで、項目ごとの重要ポイントが明確になるように工夫し、学生への理解と知識の定着を促している。「授業の質評価」の「説明の理解しやすさ」では平均値3.6と妥当な数値であったため、講義方法として大きな問題や改善点はないものとする。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目における授業方法は、前年度も模試の点数上昇などの一定の成果を上げている。次年度以降も、現在の方法を基盤とし、各項目の分析をさらに詳細に行い、国家試験対策へ反映していきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学 I	1	前期	必修	はい	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は87点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であると考え。また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであると考え。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	柳澤伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の歴史と文化	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>高校世界史の履修を前提にしているものの、受講動機で、「単位数をそろえる」という項目を選択した者が100%で、必ずしも積極的な受講姿勢が望めない状況なので、できるかぎり過去の歴史と現代とのつながりを具体的に指摘して、関心を引き付けるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績平均値は78で、傑出した成績を残す者が少なかった。到達度自己評価では、相対的に、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、授業の質評価では、「評価基準は明らか」「学習の範囲や課題は明らか」が高かったが、「学生が参加する機会」「質問を受け付け、それに答える機会」が低かった。予習・復習の時間、図書館等の利用も低調である。学生の自発性に任せすぎがあり、教員の指導にきめ細やかさが欠けていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、総合人間科目の一つで、DP1に係わる位置づけがなされている。それは、妥当であるが、学生が専門科目との関連性を感じられる工夫が授業にないと、単位数を確保するための受講、たんなる断片的な知識の獲得に終わりがかねない恐れがある。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業は、通史の教科書を使い、毎回、テーマに基づいて、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に際しては、最近の新聞記事も使い、歴史と現代の関連が捉えられるようにした。予習・復習について、学生任せにしたきらいがあり、教員には課題を具体的に与える姿勢が求められた。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>DP1に係わり、高校までの世界史の履修を前提にして、講義を通して西洋史について新しい知見を与える課題はそこそこ達成できた。しかし、学生に予習・復習をはじめとするアクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	清末達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○			○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本学の教育目標「キリスト教を教育の基盤として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、かな人間性を涵養し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する有為の人物を育成する」を達成するために、最も基礎となる科目である。進行(1)～(3)では、建学の精神を学長が、学科の教育目的と課題を各学科長が、キリスト教に基づく女性の生き方を宗教主事が講義した。進行(4)(5)では、女性として生涯を健康に過ごすために必要なことについてを専門家が講義した。進行(6)～(8)では、各人のキャリア形成についての講義があり、栄養学科のキャリアモデルとしては、坂巻准教授が自立した研究者としての生き方について講義した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が92.5%に達している。また、「職業倫理や行動規範について学ぶことができたか」、「職業選択の参考になったか」という問いに対する肯定的な回答も、それぞれ92.5%、89.4%であり、この科目の教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>主にレポートの評価をもって、成績評価を行ったところ、S,A,B,C,Dの度数は、14、43、31、11、0となり、比較的低評価のCの割合は11%にすぎず、多くの学生がこの科目に積極的に関わったとみなすことができよう。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおける学習到達度の評価結果からみて、初年時の導入教育科目としての本科目の教育内容は妥当なものであると思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「最終的に何を伝えたいのかわからない」、「たまに、本当に興味のない話が出てきた」などの学生の意見がある。オムニバス方式なので、なかなか困難であるが、1人1人の講師に対する授業評価も行う必要があるのかも知れない。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>今年度の講師陣による総合人間学概論の講義は、総体的には学生に比較的好意的に受け止められていると思われるが、一部に講師に対する批判もある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	中島俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1	前期	選択	はい	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>心理学の分野はすごく広く多岐にわたっている。基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「同一性の形成」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は集中力と興味関心が切れて寝てしまう学生への対応であった。このため講義途中で「質問会」形式を取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。本試験は記述式がその中心であるが、記載の内容もしっかり書かれており授業者の満足を得るものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「分かりやすかった」「映像が面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「授業者の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業に臨む前の学習の促進を図るための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果から言える様である。学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後試行してみたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地は大きい。がんばりたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養学科
氏名	村上 太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
行動科学		前期	選択	はい	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であるため、講義内容に関心を持っている学生または単位数の確保といった動機が主であると思われるが、授業を通して内容に興味を持ってもらえるようなテーマ・取り扱う内容を工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>「到達度自己評価」においては、学生評価の平均値がすべて3点を上回っていた。分布としては、「まあまあそうだと思う」と「わりにそうだと思う」に8割以上の学生が集中していることがうかがえる。とはいえ、様々な学部・学科の学生が非常に多く受講していることから、それぞれの専攻を勉強している学生それぞれの受講ニーズを等しく満たすことは非常に難しいため、この程度の平均値は比較的高いものではないかと考える。</p> <p>学習量としては、授業外での復習は、学生の自主性に任せてはいるものの勤めていた。その結果、復習を度々行っている学生もいた。授業の中で完結できるような内容を心がけていたため、「学習量の評価」としては適切であると考え。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DPからみた内容的妥当性 本科目は選択科目であり、学生の受講動機をふまえると難しい部分もあるが、学生も一定の成績をあげていることから、内容的には妥当であると考え。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」に関しては、すべての項目において平均値が3点以上あり、中には4点を 超える値が示されたものもあった。とくに、「説明の理解のしやすさ」は様々な学部・学 科の学生からの評価として3点後半から平均値が4点超にかけて高い値であることは評 価に値すると思われる。今後もこの水準を落とさないように進めていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>講義に対する学生の動機付けを維持することは変わらずに課題であると考えられるが、 授業内容を工夫していくことが今後も重要である。 授業内容、進め方に関しては高い評価を得ていたと思われるので、今後もこの水準を 維持したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	八木康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	選択	はい	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容の把握に重点を置いた。これらの内容は人を扱う管理栄養士として知っておくべき基礎であり、関心を持たせなければならない。受講の動機は74%の学生が単位数の確保が目的と回答していた。</p> <p>授業計画では小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストは1週間以内に採点結果を各学生に示した。学生は小テストに出る問題を推測しながら予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を理解しようという姿勢が見えるようになり、小テストのための復習をすることが当たり前のこととして定着していったように感じられた。1度目の小テストが終了した頃からクラス全体に予習復習が態度として表れたと感じられた。課題以外に学習しなかった学生が16名(103名)でその他は何らかの形で予習、復習を行っていたと考える。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は78(±8)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは49名と、問題の難易度から言っても予想以上に多かった。目標達成できたと答えた総数は81人(83人中)で96%という高値となった。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては78人(94%)、思考判断に関する問題は80(96%)であった。意欲関心も80人(96%)と高値を示した。</p> <p>今後、授業目標の達成度の程度を高めるような工夫を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、管理栄養士として必須の「運動」と「栄養」、「環境」の必要な基本的知識の一つであると考えられる。また、栄養学を運動や健康問題をきっかけと考える学生も多い。事例を多く提示し、栄養学との関連性も強めていきたい。本受講生の成績が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 思考判断に関する達成度が成績の比較してやや低いものの、思考判断として何を問うているかは学生に伝わったと思われる。成績の結果から、方法的な妥当性はあると判断する。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、予習を全くしなかった者が37名、復習をしなかった者が33名と予想より多かった。じっくり考えてもらう時間は十分にとることができなかった。予習・復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>管理栄養士に特に必要な専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、事例を検討する時間をとることができたが、じっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	八木康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習 I	1	前期	必修	はい	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。⑤健康科学実習 I では、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。</p> <p>その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は88(±7)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは85名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。意欲関心では97%に減じたが、種目やその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。</p> <p>学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置づけられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくり、リーダシップ育成に最適である。また、管理栄養士として運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生の積極性は向上し、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	102名

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○			

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義を受講する学生の高校時代の生物選択は「生物基礎のみの履修」、「生物を履修」、「生物をほとんど習っていない学生」と様々であり、これらの履修状況の異なる学生に対して、高校生物の内容をカバーしながら、栄養学科に必要な生物学、生化学等の導入教育的な要素も取り入れながら、わかりやすい授業を心がけながら授業準備を行った。また毎回、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>102名の受講生のうち、90点以上が53名、80点以上が42名とほとんどの受講生が「秀」あるいは「優」の成績であった。また授業アンケートでも好意的な意見が大勢を占め、教育目標としては大いに達成できたものと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は高校で未履修部分の生物学の内容を網羅し、なおかつ栄養学科の専門科目への橋渡しを行う基礎科目としての位置づけとなる。受講動機は単位数を確保するというものや関心のある内容であるというものを併せて90%近くとなり、到達度自己評価は自分なりの目標を少しでも達成したと答えた受講者がほぼ100%となり、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。次年度以降は事前学習、事後学習をどのように行うか、具体的に学生に対して提示したいと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも基礎科目としての役割を十分に達成していると思われる。次年度は事前学習・事後学習について受講生に意識的に提示することができればと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○			

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①選択科目である。今回の受講動機は、「教員に勧められた」50.6%、「単位数を確保する」36.8%、「資格取得に必要である」23.0%、の3つが多い。入学時のオリエンテーションで、「必須ではないが、生化学、基礎栄養学を学ぶための基礎学として役立つ」と、受講を強く薦めたことを反映した結果と考えられる。一方、「関心のある内容である」は19.5%と予想よりは高く、この学年は例年よりは、化学に対して意欲的である、または苦手意識が小さい可能性が考えられる。講義では、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で(私の講義を理解していく上で)必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。</p> <p>②講義は、スライド中心に勤めている。レジュメは、用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。しかし、講義中は、スライドの丸写しにだけ集中している学生が少なからず見られるのも事実であり、この点が今後の課題である。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終成績の平均は86点、不合格者は3名であった。優(80点以上)以上の成績を修めた学生は71名、うち秀50名と例年を大きく上回っていた。試験問題を見直したところ、今年だけ特に難易度が低いとは考えられなかった。授業の予習・復習が0または2回以下の学生が、それぞれ約60または50名であり、予習復習を事実上しない学生は比較的少ない方であるものの、6回以上行った学生が特に多いわけでもない。講義中に時折、学生に質問をすると、必ずしも正解でなくとも少なくとも自分自身の考えを述べる姿勢を見せる意欲的な学生が、今年は有意に多かった。19.5%の学生が受講動機に「関心のある内容である」と回答したと相関があると考えられる。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力をよとする問題を併せて9割以上、やや高度な思考力をよとする問題を若干の割合で出題した。多くの学生が知識の丸暗記にとどまらず、意欲的に論理的思考に取り組んだ結果が、優あるいは秀の成績を修めた学生が多かったことの最大の要因であると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、CP-1、選択科目である。合格率が高かったこと、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。すべてにおいて目標達成度は高く、内容的には妥当と考える。</p> <p>全体としては、妥当な内容であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度に関しては、十分な目標達成度が得られたと考えている。ただし、それが講義の質の高さを物語るものであるかどうかは不明である。不明の理由は、昨年までの講義内容や進め方、説明の仕方および資料等を見直し、改訂を加えてはいるが、今年が例年に比べて著しく改訂、変更を加えた訳ではないからである。特に今年の受講学年の本講義での受講態度が、例年より有意に意欲的であったことを考え合わせると、次年度の講義はテクニカルなことは、今の路線を維持し、学生に本年度同様の意欲を持たせるための方途を模索したい。</p> <p>本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面が不足していることは否めないものであったと考えている。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本年度は、合格率、平均点とも従来を上回るものであった。少なくとも本年度は、達成度は向上しているものと考えられる。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。このことは、例年よりも高い合格率に寄与した要因の1つと考えられる。次年度からは、6. に記したように講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	相良かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と統計	1	前期	選択	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①四則演算、分数、百分率などの計算問題を相互に教え合いながら繰り返し解くようにし、数字や計算問題に慣れるように工夫している。 ②毎回確認テストを行い、学習状況を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された		やや達成されなかった	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は72、中央値73点であり、60点以下の学生は10名であった。四則演算、分数の計算が出来ない学生も少なくない中で度数分布表の作成迄は出来るようになっている。</p> <p>到達自己評価 DP1の根拠 (1)有効解答99名中 3以上の評価をつけた人数 89名 (2)同 99名中 94名 DP2の根拠 (3)99名中95名 (4)99名中94名 (5)99名中94名 DP4については、評価方法まで思いが到らず、授業評価の項目にもなかったため不明</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、社会人としての基礎的な教養と知識を身に付けるというCP1の目標は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP4、「態度」については、基礎的な知識の習得に終始し、意図的には行わなかった。そして今後も四則演算、分数や百分率の計算の苦手が学生が少なくないことから、「知識・理解」「思考・判断」に関する授業を重視する予定である。 ③まとめ 以上から、D4以外においては内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>四則演算、分数の計算10分から始め講義60分、確認のための計算問題の解答20分という授業15回の結果、到達目標(4)の標準偏差を説明出来る迄には至らなかった。平均値や中央値だけで評価・判断することがないよう、データのバラツキの幅の重要性についてもう少し時間を割いて行きたいと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>四則演算、分数の計算を繰り返しており、計算問題が出されても嫌がらずに教え合いながら解答する様子から、数字アレルギーは薄らいでいるように思える。但し、私自身が大学で学んだ初等統計学のレベルと比べ、学士力を保証する内容ではない。現在は、授業内容・レベルを学生に合わせているが、本学で学士力を保証することが重視された場合の改善方法については全く分からない。</p> <p>現在、初回の授業の始め15分程で、シラバスの説明、成績評価の説明をしているが、シラバスを参考にした人数は30名と少なかった。来年度は、1年次前期の授業であることから、30分程を費やして、シラバスの利用法、本授業の到達目標、授業内容について丁寧に説明する予定である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報リテラシー	1	前期	選択	はい	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第9回までは基礎技術の習得を行い、第10回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。</p> <p>授業アンケートの受講動機では、「単位を確保する」69.8%、「関心のある内容である」34%、「教員に勧められた」18.9%であり、後者2項目の割合から、おそらく約半数の学生が必要を感じて履修していると考えられる。実際、情報関連の知識・技術は、栄養学科の学生には必須と考えられるため、エクセルによる栄養計算やワードによる献立表の作成などを課題とし、在学中のレポートや発表だけでなく、栄養士としての実務に必須の技術であることを理解できるよう工夫した。</p> <p>また、後半のグループワークでは、食育グッズの企画・試作という課題を各グループで行った。創造性やコミュニケーション能力の育成といったグループワーク一般の目的に加え、栄養士や食に関わる職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのもののおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績の平均値は96.5であった。成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。</p> <p>授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、では全員が「まあまあ思う」以上の評価をしており、「まあまあ思う」=18%、「わりに思う」=64%、「かなり思う」=18%、平均値4.0という構成だった。</p> <p>学習量の評価については、テキストによる予習を推奨したが、授業アンケートの結果から実際の予習回数は低率であった。予習とリンクした課題を設ける等の改善策を検討したい。授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「必要ない」という記述が多い。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。とりわけ、理系的な知識・技術を必要とする栄養学科では、さらに必要性が高い。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であるが、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少なく、履修率と掛け合わせると学科の全学生の2割程度と推測される。授業オリエンテーションなどを通じた受講動機の改善を望む。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価は3.7～4.1、平均3.88であった。授業中に随時口頭質問に答え、課題用のWebシステムでも質問を受けていたが、「質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」で、全くそうでないと思う1名、少しそうでないと思う2名という結果は意外であった。改善策として、今後は質問そのものを課題化し、1授業で最低1質問を全員から提出させる予定である。</p> <p>情報利用において、授業履修の際にシラバスの記載を参考にした割合が40%程度と低率であった。この質問では、シラバスを読んだが参考にならなかったのか、そもそも読んでいないのかわからない。前者であれば、シラバス作成に問題があり、後者であれば授業の履修指導に問題があることになる。授業アンケートの質問項目の改善を求める。</p> <p>図書館利用で、「インターネットのホームページを検索し、利用した」について、授業時間に全員が検索を行っているはずであるが、利用したと回答している割合は50%程度であった。より明示的にネット資料の検索を指示したい。また、質問の分類名が「図書館利用」となっているが、ネット資料は図書館と関係なく紛らわしいので、分類名を「資料利用」としてほしい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。授業アンケートの受講動機において、将来への展望に欠ける回答が多いため、受講動機に対してより訴求性のあるシラバスに改善し、授業内容そのものも、より学習動機を理解しやすいものとしたい。できれば、受講後にどのように学習動機が変化したか、受講前と比較できるよう、アンケートを取って欲しい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	相良かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習1	2	前期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①サイバー事件に巻き込まれないための知識・技術を見につけることを重視している</p> <p>②毎年、タイピングの練習に日本国憲法の全文を打たせ、読めない用語にルビをふり、意味を調べ、印象に残った条文とその理由、意見・感想を最後に付加しレイアウトを整えて提出させている。</p> <p>③4年間の学生生活で図書館を有効に活用できるように本学図書館司書による図書館検索・情報検索の授業を1コマお願いしている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、AクラスはA:52.2%、B:34.8%、C:6.5%、D:4.3、BクラスはA:13.6%、B:45.8%、C:30.5%、D:10.2%であり、出席し与えられた課題を提出した学生は到達目標はクリアしている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、社会人としての基礎的な教養と知識を身に付けるというCP1の目標は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②著作権法、ネットワークエチケット、サイバー事件の最新情報についての授業をしており、「知識・理解」「思考・判断」「態度」共に内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>習熟度別クラスではないため、「授業の進みが早い、途中なのに進んでしまって困った」という意見と「説明が遅い」という意見があり、年々習熟度の格差が広がっているように思う。 相互に教え合える雰囲気を作り、教え合うことを奨励することに加え、操作技術を習得する課題ではなく、情報を検索し、思考しまとめる課題を増やす予定でいる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>思考することを重視する授業を心がけている結果、「復習(記述統計)を重点的にしてくれて少しずつ出来るようになり、嬉しかった」という感想がある一方で、「この場合はこの公式を使うというように教えてほしい」、「説明が回りくどい」といった意見があった。 シラバスの説明を詳細に時間を掛けておこなうことに加え、教科書に準ずるものを作成し、15回の授業の全体のイメージが描けるようにしたいと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「単位数を確保する」100%であった。履修登録者が5名しかおらず、資格取得には直接結びつかない科目であるためか。ただ、保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、栄養に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>前期試験の平均点は58.2点、再試験対象者は3名であった。また、理想的レベル(80点以上)に達した者は0名であった。知識理解を文章で論述してもらった問題形式であったが、文章の書き方そのものが十分身についていない答案が見られた。学生による到達度自己評価については、受講者が5名しかいないので、傾向分析は困難である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、受講者数が時間割に左右される傾向があり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるためには重要であることから、内容的には妥当であると考えます。②DP,行動目標から見ると、栄養学科の受講生は5名と少なく、かつ成績も芳しくないが、これだけをもって内容的妥当性を測ることはできない。他の学科の学生については自己評価と成績に相関関係が見られることから、内容的には妥当であると考えます。よって、内容的妥当性には問題ないと考えます。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価については、受講者が5名と少ないことから、特に目立った数値は出ていない。今後は教員に負担にならない程度で学生の質問を促す方を考えた。加えて、予習・復習の仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>今年度の履修者に限定すれば、残念ながら社会人としての基礎的な教養と知識の形成について達成できなかったと考える。それでも、社会人としての基礎的な教養と知識を得るためには必要な科目であり、今後は新入生に対して、履修登録の際にシラバスの記述を参考にするための教育を大学全体で行っていただきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語 I	1	前期	必修	いいえ	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>当科目は必修科目であり受講動機の項目を見ても「資格取得に必要である」と答えたのは1人で、残りは「必修だから」「単位数確保」のためと「積極的」な理由で受講している学生は少ない。また、初回の授業で英語に関する簡単な意識調査を行った。そこでわかったのは、多くの学生が「英語が苦手」という意識を持っていることだ。したがってなるべく学生の関心領域にかかわる項目について補足説明をしりて関心を引くように努めた。また身の回りの物事を英語で何というか調べる自主学習を毎回提出させ、英語を日常生活に溶け込ませるための方策をとった。中間と最終の授業日にテキストの前半と後半部分の単語テストを行い、レビューをさせるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価の項目の結果を見ると、「自分なりの目標を達成した」に対しておよそ50%の学生が「まあまあそうだと思う」と答え約40%の学生が「わりにそう思う」と答えている。こうした自己評価の相対的な低さが最終成績の結果(平均点は約71.6点)にも反映されている。最終成績もややばらつきが多く再試験対象者も14名だった。初回の授業で表明された「英語が苦手である」という意識が改善されたとは言い難い結果である。</p> <p>また専門分野への関連づけもやや足りなかったのではないかと考えている。これは、専門分野に関する思考・判断や関心・意欲などの点についても5～6割程度の学生が「まあまあそうだと思う」という評価をしている点、あるいは図書館利用がほぼ皆無であった点に表れている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① 当科目は必修科目であり「栄教一種免許」が関連資格である。ところが受講動機を見てもわかるとおり、積極的な理由づけで受講している学生は少ない。この点に関して、日常生活と英語を関連づけ、2回の単語のレビューテストで動機付けを図るなどの工夫を行った点からも内容的に妥当であると判断する。</p> <p>② 到達度自己評価を見てもおおむね「達成した」と回答している受講生が多かったので、内容的妥当性は許容範囲ではあるが、より積極的な自己評価を引き出すための余地はまだあると思われる。</p> <p>③ 全体的には内容的におおむね妥当であったと思われる。このような評価に至ったのは、やはり最終成績がやや低かったことと、学生自身の自己評価がやや低かった点である。これは毎回の授業で学生に達成感を体験させることが少なかったこと、毎回小テストを実施するなどしてフィードバックを与えることが不足したことだと考えられる。これは授業計画上の問題であり方法論上の問題であると認識している。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>期末試験の結果も予想よりも低かったので、ティーチングポイントとテストポイントの一致を意識して問題作成と授業計画に臨みたい。 テキストの内容を進めるのに精いっぱい時間的に余裕がないのが実情であるが、専門分野への関連づけとして追加資料の配布などの工夫を試みたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>全体的にはおおむね達成できたが、もっと学生に「英語がわかった」という感覚を経験させたかった。そこが不十分であったことが学生の到達度自己評価のポイントにも反映されていた。どのようにすれば「英語がわかった」という感覚を得てもらえるのか、その手立てを考えるのが課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	塚本美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語I	1	後期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① この科目を担当することは初めてだったので、学生の状況等を事前に把握することが難しく、授業を進めながら必要に応じて授業の内容や進め方について修正していこうと思ったが、授業中での把握は難しく、臨機応変に学生の状況に合わせて授業の方法を変えるのが難しかった。</p> <p>② 学生の理解度を把握するために、8コマ目と15コマ目で小テストを行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は86.9点で、ほとんどの学生が標準的レベルに達し、多くの学生が理想的レベルに達していたが、再試対象者は4名であった。成績から見ると多くの学生が理想的レベルに達しているのに、到達度自己評価については、「まあまあそうだと思う」と答えた学生が圧倒的に多く、これは授業中に学生に達成感を味あわせることができなかったからかもしれない。学生が達成感を感じやすい言語活動をとりいれるなどして、授業の実施の仕方を工夫したいと思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。 本科目は「総合人間科学」の必修科目である。学生の習熟度に大きな開きが見られたが、小テストを2回実施し基本的な項目の定着を図るなどし、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>② DP, 行動目標からみた内容的妥当性</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、どの項目についても半数以上の学生が「まあまあと思う」と回答しており、ある程度肯定的に受け止められていると思われるが、改善点も多い。特に成績評価に比べて、到達度自己評価が低いのは、学生が授業中に達成感を味わえなかったためである可能性も考えられるので、学生が自分の学修の深まりを実感できるような言語活動を取り入れるなどして、授業の方法を改善していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>総合人間科学の必修科目である本科目としては、成績評価から基礎的な知識の習得については概ね達成できたが、標準レベルに達せなかった学生も若干名いたので、この点には課題が残る。8回終了時点の小テストで理解度が十分でなかった学生に対しては、課題を提示したり、授業の中で復習の場面を作るなど、改善が必要であると考えます。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅲ	2	前期	選択	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 栄養学科選択科目であるが、受講動機は3名とも「関心のある内容である」になっている。 ② 月曜日1日限目の授業であったが、授業開始10分前には教室に行き、体制を整えた。 ③ 例年受講生が少ないということ、看護学科との合併授業ということを考慮して、使用テキストの選択に苦慮した。結果として、2007年当時、読売新聞西武本社編集委員であった那須省一氏が、英字新聞「The Daily Yomiuri」(現在のThe Japan News)に毎週掲載していたコラム「英語でできる」(Wandering through English)を読みながら、受講生の教養力を身につける準備に着手した。すなわち、注釈がないので、毎回受講者向けの詳細な注釈を作成し、授業の理解を得る努力をした。この準備には毎回3～4時間を要した。 ④ 上記テキスト以外に副教材資料として、「医療用語日英対照表」を用いて、医療用語に関する英語の語彙を増やす準備をした。(主に看護学科受講生用) ⑤ 英字新聞「The Japan News」から、食育と健康に関する記事を適宜ハンドアウトとして使用する計画を立てた。(主に栄養学科受講生用)</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 受講生3名であったため、各項目の具体的な判断は多少困難な状況にあるが、最終成績が3名とも○評価の範囲にあったため「やや達成された」という判断に至った。 ② 看護・栄養の合併クラスであったため、基礎教養に関する部分と、それぞれの学科の専門性に関わる内容を組み合わせながらの指導となった。その結果、到達度自己評価項目のDP(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」という項目では、「わりにそうだと思う」が2名で、「まあまあそうだと思う」が1名になったのではないかと推測している。 ③ 3名とも予習・復習に関しては、それぞれ複数回こなしている。 ④ シラバスも全員参考にしている。 ⑤ 図書館等の利用は、利用した数としなかった数が1対2の比率になっている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本教科は「総合人間科学」の中の一つで、栄養学科2年生の選択科目(1単位)である。栄養学科のCPにおける3つの到達目標である「英語を読み理解する能力を身につけることができる」「専門用語にも慣れ、理解できるようになる」「『医療と健康』についても理解することができる(看護学科と共通内容)」ということに関しては、テキストの選択、プリントや新聞記事の適宜利用において、内容的には妥当であると思われる。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 栄養学科DP1-1の「社会人としての基礎的な教養を身につけている」に関しては、テキストの内容が、多くのグローバルな時事問題を含んでいるため、本項目の内容を満たしていると考えられる。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 授業の質評価における(1)～(5)の各項目においては、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」の範囲内に全て納まっているので、方向性は間違っていないと考える。 ② 学習量の自発的学習に関しては、取り組んだ者と取り組まなかった者の人数は1対2であったが、絶対数が少ないため参考程度に留めたい。 ③ 情報利用・図書館利用に関しては、学科の専門教科とは異なるため利用率が少ないのであろう。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>① 苦慮しながらの出発となったが、3名に関してはそれなりの努力の成果が見えたので、達成状況を「やや達成された」と評価した。しかしながら、もう少しの努力で80%を超える評価になる者も複数名いたが、そこに壁があったのであろう。 ② 欠席回数は3名とも1～3回の範囲であったが、次年度は無欠席の状況に期待を寄せたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話A	1	通年	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focused on oral communication, specifically speaking and listening skills. The textbook was Interchange 1 (Cambridge), which included functional and grammatical targets in a variety of contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 6 criteria (attendance 30%, class work 25%, quizzes 13%, a short presentation 5%, homework 7%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in oral communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-89 range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students showed progress in their interest and attitude towards English, as would be expected. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in real world contexts. The specific skills acquired were both functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic life skills. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>My main goal for the next academic year will be to successfully transition the Nursing and Nutrition Departments to the curriculum and textbooks currently used in the English and Tourism Departments. This will include integrating relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools.</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>Improving evaluation and assessment methods requires constant updating to fit changing institutional and faculty objectives, specific course objectives, and the limitations set by class size and individual class dynamics. The following changes take these considerations into account. Streamlining and improving the use of class workbooks to encourage careful note taking and completion of homework will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on clear objectives for each class. The use of rubrics to assess class presentations and role plays would also streamline and improve assessment. Finally, the introduction of a simple peer-review process for assessment of presentations might transform passive observers into active participants in the learning process.</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語 I	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今まで学習経験のない科目であるので、科目名から学生の履修する意欲をひきつけられるように、初回のガイダンスでは詳しい授業の目標を示した。また、実用性のある実例を提示した。この科目の学習を通して、その将来性を示した。</p> <p>②学生の学習状況を把握し、学生が自らの復習を身に付けることができるように、毎回必ず前回学習した内容の確認テストを行った。</p> <p>③授業用のテキストの他に、普段の日常生活で実際に使える簡単な会話例文を、毎回の授業で別教材として補足した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①最終的な成績分布は、「100～90点」が3名、「89～80点」が13名であった。本科目の標準的レベルは75点以上、理想的レベルは80点以上とし、平均値は87.0点であったため、評価できる結果に達している。</p> <p>②「到達度自己評価」をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値は4.7点、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.2点であった。</p> <p>③「学習量の評価」によると、授業前の準備(予習)がかなり不足しており、これは次年度の課題としてもっと工夫すべきである。</p> <p>④「情報利用」をみると、「シラバスの記載を参考にした」値が1/2を占めており、シラバスが活用できていることが分った。</p> <p>⑤語学学習は単に言葉を習得するだけでなく、それと関連性のある知識や情報を学ぶべきである。この点について、「図書館利用」はまったくなかったという結果から、図書館の資源の利用、ネット情報の重要性に対する学生の認識はまだ不十分であることが考えられ、次年度に向けてしっかりと指導していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、「選択科目」であり、また「資格取得に必要でない科目」でもある点において、学生の受講動機を高めようとしてかなり工夫した。学生は半期の授業を受け、一定の成績評価を得られることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②基礎的知識をしっかりと身に付け、新たな事象を理解できていることから内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③以上のことから、総合的にみると、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「(3)説明は理解しやすいものであった」の平均は4.0点、「(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話しあう、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均は3.3点であった。しっかりと理解した上で、自ら習得した内容を発表できるようになったことは大変良いことと思われる。学習量の評価について、(1)授業の予習時間は1回30分未満は2/3を占め、(2)授業の復習時間は1回30分以上は2/3を占めた。新しい語学の授業であるので、予習することはかなり難しいということが(1)の結果から反映された。その反面、新しく学習した内容をしっかりと復習できているところは評価すべきである。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>①殆どの学生にとっては、新しい語学の学習であったが、初級段階における中国語の表現記号(ピンイン)を判断し、発音できるということは概ね全員達成できた。 ②初級的な文法を理解し、簡単な文を表現することもできるようになっていた。 ③授業外の復習やその他の情報・図書館利用の面においては、まだ改善すべき点が多かった。もう少し学習の方法を指導していきたい。 ④以上のように、次年度からは予習課題に関する具体例を示し、学生が積極的にそれを取り入れ、また、習得した内容をもっと表現できるように授業中の発表時間を増やしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	金銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル I	全学年	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで(学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施)「英語以外の言語に触れてみたい」や、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。</p> <p>○受講姿勢に差がある60に近い受講生全員が興味と持つように「楽しい」授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>登録のみで授業に出なかった1名を除いた57名の成績平均は83.160で理想的レベルに達することができ、再試対象者もいなかった。</p> <p>授業評価における到達度自己評価でも全設問満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「知識を新たに得ることができた」や「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の設問に特に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ると内容的妥当性試験の結果で見られるように第二外国語として、目標としていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。</p> <p>DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。</p> <p>まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、なんとか授業に取り入れる方法を考えたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして授業評価の自由記述に「上級クラスがあれば進みたい」との意見があったことがこのクラスの成果の表れと言えよう。来年度も引き続きよい成果を挙げられるようがんばりたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学概論	1	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養士・管理栄養士としてどのような社会的貢献ができるのか、そのフィールドや責務を学び、将来のキャリアに対する自己の課題を認識する。②大学での勉学を進めていく上で不可欠な学習の基本的スキルにどのようなものがあるのか、なぜそれらが不可欠であるのかを理解する。③主体的な学習態度を身につける。という3点を中心に、担当教員が講義を行った。また、フレッシュセミナーと銘打った先輩管理栄養士の講話を聞いたり、給食管理実習室で4年生が調理した昼食を食べ、栄養士・管理栄養士の仕事について学ぶイベントを実施した。</p> <p>成績評価は、この科目を受講して、将来の職業としての栄養士・管理栄養士についてどのような考えを持ったかについてレポートを提出してもらい、各教員による評価を行った。今年度より、レポートの評価にあたっては、評価の偏りを避けるため「課題の理解」、「構成」、「文章表現」等10項目の評価項目からなるルーブリック評価を実施した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が93.8%に達している。また、「職業倫理や行動規範について学ぶことができたか」、「職業選択の参考になったか」という問いに対する肯定的な回答も、それぞれ94.8%、95.8%であり、この科目の教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>主にレポートの評価によって成績評価を行ったところ、S,A,B,C,Dの度数は、57、35、7、0、0となり、ほとんどの学生が高評価(sまたはa)を取得しており、大部分の学生がこの科目に積極的に関わったものと考えられる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおける学習到達度の評価結果からみて、栄養学科における初年時の導入教育科目としての本科目の教育内容は、ほぼ妥当なものであると思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>インターネット検索やデータベースの利用を行った学生の割合が低い(10%程度)ことから、わからないこと、疑問に思ったことをその都度学生自らが、積極的に調べるといった姿勢を身に付けさせる必要があると思われる。学生が持っているスマートフォンを活用するなどの工夫を取り入れてはどうかと感じている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>新学生は、この科目に真摯に取り組み、将来の職業としての栄養士・管理栄養士について、入学当初と比べて、かなり具体的なイメージを持つようになったと思われる。 課題としては、学生の知りたいことと教員の側が提供する講義内容とがどれほどマッチしているかを何らかの方法で調査できないかと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	中島俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>より良い社会の建設は教育の成否にかかっています。良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むことを学生に強調しています。教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出るだけ厳選して授業に臨みました。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験の内容を見ると、良く書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる) 授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>言葉による講義だけでは学生の集中力が続かないことは経験上理解しているので毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。これは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性を体現している現代の学生のニーズに対応して討議方法の工夫などさらなる工夫をしていく必要性を痛感している。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	栄養
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養教諭の使命と役割を理解し、児童生徒の食に関する実態を把握した上で、食に関する課題を解決するための意識・態度・姿勢を持つことを目的としている。さらに栄養教諭としての指導に対する認識を深め、どのような食の指導を行う必要があるか考える力を身に付けることに重点をおいている。本科目の受講生は、栄養教諭を目指す学生であり、「資格取得に必要である」ことが受講理由である。本科目を受講するにあたり、栄養教諭に必要な資質として主体的に取り組む力が必要であるため、授業以外でも自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう促していく必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。						
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の受講生は2名であり、授業アンケート等で客観的に評価することは困難であるが、最終成績では2名とも理想的レベル(80点以上)に達したため、上記の評価とした。しかし、講義形式が主であったため技能表現(DP5)や、態度(DP4)を修得は達成しにくいと考えられ、次年度の課題とした。次年度は学生が考える事例を取り入れる等の工夫をしていきたいと考える。また、受講生が少ない中で授業を進める場合は、学生の意見を適宜取り入れながらきめ細やかな授業を実施していきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、教職に関する科目の中に位置づけられており、栄養教諭の使命と役割、職務について理解し、栄養教諭としての意識・態度・姿勢を持つために重要な科目である。受講生が2名のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は理想的レベルに達しており、到達度自己評価は平均3.5点であったため内容的妥当性はあるものとする。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、栄養教諭の免許取得のために必要な科目であり、栄養教諭としての基礎的知識や資質および態度を修得することが重要である。しかし、「学習量の評価」では、予習復習の時間が2、3回程度であり、ほとんど授業時間以外での学習をしていない結果であった。栄養学科3年生は臨地実習前で他教科の課題が多い時期ではあるが、本科目の目的を達成するためには、授業時間以外での学習が必要である。次年度は、課題や小テストを実施するなどの改善を行い、知識の定着や、主体的に学ぶ力等を身に付けていけるよう工夫していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は2名であり、授業評価からの客観的な判断は困難であるが、最終成績より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要があり、次年度からは課題の提示等、工夫・改善を行いたい。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいいため、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。</p>
------------------------------	--